



TITLE:

獨逸大銀行と中小工業金融(上)

AUTHOR(S):

楠見, 一正

CITATION:

楠見, 一正. 獨逸大銀行と中小工業金融(上). 經濟論叢 1931, 33(5): 728-740

ISSUE DATE:

1931-11-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130101>

RIGHT:

大正四年六月二十一日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）

會學濟經學大國帝都京

叢論經濟

號五第

卷三十三第

行發日一月一十年六和昭

（禁轉載）

論叢

景氣徵候論について……………文學博士 高田 保馬

魚食論……………法學博士 財部 靜治

英國の重農主義者……………經濟學博士 堀 經夫

時論

赤字財政と對策……………法學博士 神戶 正雄

平價切下論を駁す……………經濟學博士 汐見 三郎

研究

カッセル教授の貨幣數量説の實の吟味……………經濟學士 柴田 敬

獨逸大銀行と中小工業金融……………經濟學士 楠見 一正

金數量説に就いて……………經濟學士 松岡 孝兒

說苑

ケインズの基本的均衡關係……………經濟學士 中谷 實

世帯統計に就て……………經濟學士 岡崎 文規

貸借對照表の基礎的考察……………經濟學士 熊本 吉郎

老齡船の處分に就いて……………經濟學士 佐波 宣平

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

獨逸大銀行と中小工業金融 (上)

楠 見 一 正

第一、序 言

近時米國に於ける小額金融の發達は驚くべきものがあるが、獨逸に於ては特殊の事情の爲めに、可成り古くから中小工業の金融に對して特別の努力が拂はれ、此の問題に關する研究も頗る盛にして、其の設備に於ても完全とは云ひ得ない迄も、而も尙他國の追隨を許さざるものがある。勿論獨逸に於ては中小工業の金融難問題は戰前に於ても既に十分解決せられてゐたとは云へないが、特に戰後莫大なる資本を喪失した今日では益々難問となつてゐる。實際獨逸では中小工業は屢々資金需要者の Aschenbrödel とさへ呼ばれる有様であつて、戰後獨逸の經濟狀態が一變してからは、特に中小工業の金融問題に關して特別の考慮が拂はれつゝある。蓋し從來獨逸經濟の重點は基本工業に存してゐたが、戰後に於ては基本工業は其の重要性を失つて主として中小工業に依つて占めらるゝ加工工業にその地位を讓つてしまつたからである。故にかゝる加工工業を援助することは獨逸の輸出促進にも重大なる影響を持つわけであつて、コンチエレン及びトラスト運動の盛なる現在に於て獨立せる中小工業の援助が特に重要性を有する所以は實に茲に存する¹⁾。かくして獨逸に於ては戰前より既に中小工業がその特殊の事情の爲めに重要な地位を占めてゐたが、戰後益々その重要性を加ふるに至り、中小工業金融の問題も従つて重きとなし、その金融疎通に必要な金融機關に就いても早くより相當に整備してゐる。即ち獨逸に於ては中小工業の短期金融機關として約千三百の市街地信用組合、約四千の貯蓄銀行が主として活動し、信用銀行、個人銀行家、問屋等も亦中小工業の短期金融には相當の關係を有してゐる。又中小工業の長期金融機關としては不動産抵當銀行 Investment Trust, Landeshbank

1) Kalveram, Banken und Industrie (Bankwissenschaft. 6. Jahrgang Heft 24. 1930 März S. 162)

zentrale²⁾の外に、最近新設せられた工業金融組合 Industrieschaft³⁾が存在し、相俟つて獨逸の中小工業金融の爲めに相當の貢獻をなしつゝある。本稿に於ては獨逸の信用銀行殊に大銀行が中小工業金融に對して如何なる關係にあるかを研究せんとするものである。

第二、銀行集中の中小工業金融に及ぼす影響

獨逸の信用銀行 Kreditbank は兼營銀行主義として知らるる如く、その活動範圍は頗る廣汎にして、銀行券發行業務並に不動產業務の外は殆んど凡ゆる業務を行ひ得るのであつて、獨逸の銀行が大工業と密接不離の關係を有し、工業金融に於て重要な地位を占むることは周知の事實である。又獨逸の信用銀行は中小工業金融に對しても全く無關係ではないが、銀行集中の結果は漸次銀行をして中小信用より離れしむるに至つた。即ち獨逸に於ては戰前既に銀行集中の傾向が著しかつたが、銀行集中の結果は必然的に中小商工業者と關係深き個人銀行家並に地方銀行を減少せしめ、被合併銀行は大銀行の地方的營業所として、銀行の膨脹と共に全般的の關係が益々密接となり、從來その地方的營業所に於て認められた個人的特異性が認められなくなり、中小工業者の金融を困難ならしむる。而も大銀行の支店網は地方の資金を直接間接に中央に吸収して、地方の中小企業家は益々資金の缺乏を感じる。かくして中小商工業者は銀行制度の著しき發展に依つて何等の利益を享受せざるのみならず、寧ろ大銀行が中小商工業の金融より漸次遠かつて、却つて其の金融難を促進する傾向は見逃し得ざる所である。⁵⁾

- 2) 柏塚辰雄、獨逸中央土地銀行と不動産證券化(商業及經濟研究第59冊)
- 3) 拙稿、獨逸中小工業金融關としての Industrieschaft (經濟論叢第32卷第2—4號)及獨逸中小工業金融と工業金融組合の實績(經濟時報第2卷12號第3卷1號)
- 4) 拙稿、獨逸信用銀行の小額金融に於ける地位(經濟時報第3卷第7號)
- 5) Rössle, C., Die kaufmännische Führung des Handwerksbetriebes. Berlin 1931. Bd I. S.S. 226—227; Weber, A., Depositenbanken und Spekulationsbanken. München

此の事實は一九二九年以來 Deutsche Bank と合併してゐる Diskont-Gesellschaft に於ても明かに伺ひ得る所であつて、デイスコントゲゼルシャフトは元來中小工業金融に貢献せんが爲めに設立せられたものであつて、その設立案第一條に依れば次の如く述べられてゐる。即ち『大商工業並に中小商工業者に對する對人信用は、その業務の範圍、財産、能力、節約、識見、及正直等に従つて、正當に判斷せられねばならぬ。従つて實際上かゝる事情の標準に依れば、數百ターレルの對人信用に於ける小商工業者は數千ターレルの對人信用に於ける大商人或は工場主と同様に信用があり、且確實である。然るに中商工業者はその信用を得るに著しき困難を感じ、或は全く信用が得られなほ有様であるから、彼等を此の窮狀より救ひ出すことが目下の急務である』と。即ちデイスコントゲゼルシャフトは建築業、製靴業、仕立業、製革業、肉屋、パン屋等の小産業者の手形を割引し、或は彼等に當座貸越で信用を與へんことを目的として、一八五一年柏林でその業務を開始したのである。然るに一八五六年にはその有限責任資本額を三千萬マルクに増資してその營業範圍を擴張し、多大の變更を加へたが、此の時には未だ此の特殊業務を放棄するには至らなかつた。然し一八六八年には關係者と一般銀行業務に於ける當座勘定を開始し、一八八四年には此の中小商工業者に對する特殊業務を廢止してしまつた。かくの如くデイスコントゲゼルシャフトは始め中小企業者に對して、彼等の狀態に相應した額の信用を低利で供給する目的を以て設立せられたのであるが、銀行が漸次膨脹して大銀行になるに及び、此の古い規定は次第に忘れられて行つた。⁷⁾

銀行の集中化、大銀行は中小工業金融を益々困難ならしめたが、殊に小工業、手工業の金融に關しては、大銀行は殆んど何等の關係がないと云ふも過言ではない。此のことはシェーニッツの

- und Leipzig. 1922, S.S. 118 u. 198.
- 6) Schönlitz, H., Der kleingewerbliche Kredit in Deutschland in systematischer privat- und nationalökonomischer Darstellung. Karlsruhe 1912. S.S. 40-41; Dabritz, W., Gründung und Anfänge der Discont-Gesellschaft. München 1931. S.8.
- 7) Stille, O., Die Banken; ihre Arten und ihre Beziehungen zur Gesellschaftsordnung. Berlin 1924. S. 150.

研究に依つて明かにすることが出来る。⁸⁾ 即ち彼に依れば、一般に小産業者は大銀行には近づき難いものであつて、フライブルグ其他の地方小都市に於ては小商工業者も銀行信用を得る可能性を幾分有してゐるが、伯林の如き大都市に於ては小商工業者の大部分は銀行信用を受ける便宜を全く有しないも同様である。手工業者が、大銀行から信用を受け得るのは、特に彼に對して銀行の大顧客の推薦があつた場合とか、或は手工業者が銀行の支配人又は高級行員に、古くから修繕其の他に依つて、よく知られてゐる場合とか、或は又長く銀行と預金勘定を有してゐる場合とかの特殊の場合に限られる。而も南獨逸の或銀行の支配人が語つた所に依れば、手工業者の部門に依つて信用を與ふるものと與へざるものとが全く感情的に區別せられるのであつて、例へば肉屋、パン屋、菓子屋等は比較的容易に銀行信用を得てゐるが、指物師及靴屋に至つては何等の援助を得てゐない。尙銀行の中小工業者に對する信用授與の種類及方法は他の顧客に於けると別段の相異はないのであつて、古くから顧客として銀行からよく知られてゐる場合には何等の困難を伴はないが、銀行に全く知られてゐない場合には、彼等は貸借對照表を提出することを要し、嚴重なる調査が行はれ、更に場合に依つては保證を要求せられると述べてゐる。

要之、銀行の集中は大銀行をして中小工業金融より漸次離れしむるに至つたことは明かであつて、殊に小工業に至つては大銀行とは全く關係がないと迄言はれてゐるが、然し大銀行と雖も中小工業金融に對して全く無關心なのではなく、相當の努力を拂つてゐることは忘れてはならぬ。次に項を改めて獨逸の大銀行が中小工業の短期金融及長期金融に對して、如何なる程度に關心を

8) Schönitz, H., a. a. O. S.S. 41-43.

有しつゝあるかを明かにしたい。

第三、大銀行と中小工業の短期金融

一、中小工業の短期金融の形式

中小工業の短期信用は其の財源に依つて大體供給者に依る信用、銀行信用、並に顧客の前拂の三つに大別せられる。原料商、問屋の如き供給者の信用 Lieferantkredit は中小工業殊に小工業の短期金融方法としては相當重要な地位を占むるものであるが顧客の前拂 Vorauszahlungen von Kunden は家具工業の如き顧客の希望が重視せらるる部門に於てのみ行はれるのであつて、中小工業の金融方法としては殆んど見るべきものはない。¹⁾

銀行信用も亦中小工業の短期金融に於ては閑却し得ないものであつて、銀行の中小工業に對する短期信用は種々の形式に依つてなされるが、割引、引受、當座貸越、及動産擔保貸付等を舉ぐることが出来る。割引信用 Diskontkredit は銀行が中小工業者の支拂として受取つた手形を、割引料を差引いて買入れ、彼等に金融を得せしむる方法であつて、引受信用 Akzeptkredit は銀行が、中小工業者から例へば問屋に對して振出した手形を引受けて、その手形の支拂に就いて義務を負ふものである。かくして中小工業者はその問屋に對する支拂を、銀行から引受けられた手形の期間だけ延期せしむることが出来る。次に當座貸越 Kontokorrentkredit は銀行がその銀行に當座勘定を開いてゐる中小工業者に對して、必要に當つて何時でも短期の信用を利用せしめ、自由に拂込返還せしむる方法である。現今此の當座貸越に對しては豫め擔保を要求せらるるのが常で

1) Rössle, C., Die kaufmännische Führung des Handwerksbetriebes. Berlin 1931. Bd. I. S. 208 u. 210.

2) Rössle, C., a. a. O. S.S. 208-210.

あつて、保全抵當設定の外に屢々第三者の保證が要求せられ、又商品讓渡或は質入等が行はれる。

此の手形割引と當座貸越とは銀行の中小工業短期金融として重要な地位を占むものであるが、大銀行に於ては此の種の方法に於ても中小工業金融に十分なる貢獻をなしてゐるとは云へない。その原因は一面に於て中小工業者の方で大銀行を敬遠する結果であつて、中小工業は大銀行からは殊に嚴重なる條件を要求せられるのみならず、中小工業は大銀行より十分なる援助を期待し得ないのと、更に中小工業に於ては從來手形取引及小切手取引が非常に少なく、商取引の支拂期間が非常に長かつたので、その支拂に關して銀行の援助を必要としないと考へたからである。又一面に於て中小工業に對しては、一方信用組合の中小手形割引があり、又他方一九〇九年以來郵便振替及小切手取引 Postüberweisungs- und Scheckverkehr が著しき活動をなしてゐるからでもある。獨逸に於ては信用組合が中小工業の短期信用に於て重要な地位にあることは云ふ迄もなく、又郵便振替及小切手制度は中小工業者に從來缺けてゐた銀行取引の不便を補ふに十分であつて、中小工業及手工業が長く熱望し、努力して得られなかつた商取引の支拂期間短縮の端緒は此の制度に依つて初めて與へられたと云はれてゐる。⁴⁾

手形割引は中小工業の短期信用方法として典型的なるものとせられてゐるが、その手形割引に就いて見ても、獨逸に於ては小額手形の地位は佛蘭西に於けるよりも著しく低いのであつて、Schulze-Gaevernitz の指示するが如く、一九〇六年に於ける兩國の手形の平均割引額を比較して見るに、ライヒスバンクに於ては二、〇六六マルク、伯林の六銀行ドイツチェバンクに於ては五、

- 3) Reier-Hirschberg, Die Industrieschaft als Lösung für das Kreditproblem der Mittel- und Kleinindustrie. Berlin 1926. S. 27; Loewenstein, A., Geschichte des Württembergischen Kreditbankwesens und seiner Beziehungen zu Handel und Industrie. Tübingen 1912. S. 211.
- 4) Riesser, Die deutschen Grossbanken und ihre Konzentration. 4. verbesserte u. vermehrte Aufl. Jena 1912. S.S. 194-195 u. S. 205.

三六六マルクを示すに反して、佛蘭西銀行に於ては六八三フラン、クレヂリヨネー *Credit Lyonnais* に於ては七七三フランを示してゐる。⁵⁾ かくの如く銀行に於ける手形割引の平均額は獨逸に於ては佛蘭西に於けるよりも遙かに多額であるから、之に依つて見ても、獨逸に於ては中小手形の割引が比較的少ないことを察し得るのであつて、リーサー博士も大銀行の中小工業及手工業に對する從來の封鎖的態度の改むべきことを強調して次の如く述べてゐる。『殊に小額手形並に最も小さな手形の割引は佛蘭西に於けるが如く、獨逸に於ても亦注意すべき業務の對照とせられねばならぬ。⁶⁾』

二、中小工業の短期金融に於ける擔保

從來獨逸では之等の短期信用は屢々無擔保で、所謂對人信用として與へられてゐたが、然し現在に於ては之等の中小工業の短期信用に對しても、十分なる物的擔保を要求せらるる様になり、且又屢々時價で五〇%乃至一〇〇%の超過擔保を要求せらるる有様となつてゐる。⁷⁾ 中小工業の短期信用に於ける擔保としては、大體不動産、債權及動産の三種に分つことが出来る。

(イ) 不動産擔保 一般に不動産の擔保としては從來保全抵當 *Sicherungshypothek* の方法が多く行はれたが、現在に於ては所有者土地負擔 *Eigentümergrundschuld* の方法が多く行はれる様である。之は保全抵當の方法に於ては債權者たる銀行の側に種々の不便が存するに反して、所有者土地負擔の方法に依れば債權者たる銀行の側に種々の利益があるからである。乍併不動産の擔保は短期信用に於てよりも、主として長期信用に於て行はれるのであつて、短期の工業信用として

5) Schulze-Gaevernitz, a. a. O. S. 64; Somary, F., Bankpolitik, 2. neugearbeitete Aufl. Tübingen 1930. S. 36.
6) Riesser, a. a. O. S. 206.
7) Reier-Hirschberg, a. a. O. S. 31.

は債權及動產の擔保が多く行はれるのである。

(a) 債權擔保 受信者の債權 Forderungen des Kreditnehmers の擔保提供は、銀行に對する私經濟的證書に依つて、その債權讓渡の形式に於て合法的に行はれるのが常である。此の債權を擔保とする中小工業の短期金融方法として、特に注目すべきは賣掛金割引制度 Die Diskontierungen von Buchforderungen である。此の賣掛金の割引は壞太利に於て可成り早くから行はれた制度であるが、二十世紀の初頭以來獨逸にも移され、中小商工業、殊に小商工業の短期金融方法として相當の重要性を有してゐる。獨逸に於ては此の賣掛金割引は主として信用組合に於て行はるる所であるが、信用銀行に於ても此の業務に對して相當の努力を拂つてゐる。⁸⁾ 賣掛金割引制度は實は眞の意味に於ける割引ではなくして、寧ろ債權の擔保的讓渡に基づく一種の貸付である。即ち顧客は讓渡證書に依つてその賣掛債權を銀行に讓渡又は質入し、銀行は之に對して顧客に信用を與ふる契約をなすものである。其の方法は通常銀行が受信者を手形支拂人とする手形を振出して、之を受信者に引受けしめて割引するのである。⁹⁾

此の賣掛金割引の實際の取扱は各機關に依つて必ずしも一樣ではないが、今その一例として最も有名なる伯林の大銀行 Deutsche Bank に於ける方法を考察して見やう。同銀行は一九〇九年二月一日他行に率先して、別に賣掛金割引部 Abteilung für Diskontierung von Buchforderungen を設けて此制度を採用したのであるが、¹⁰⁾ 同行は此の業務を大伯林に制限し、且主として中工業並に卸商の賣掛金を割引くのであつて、小賣商及手工業者のそれに對しては餘り干與しない様であ

- 8) Schönitz, a. a. O. S. 334; Arnold, E. G., Untersuchungen über die Diskontierung von Buchforderungen und ihre volkswirtschaftliche Bedeutung in Deutschland. München und Leipzig 1913. S.S. 30-31.
9) Leitner, F., Bankbetrieb und Bankgeschäfte. 6. neubearbeitete Aufl. Frankfurt a. M. 1923. S.S. 268-276; Stillsch, O., Die Banken und ihre Geschäfte. Leipzig 1924. S.S. 95-97.

る。ドイツチェバンクに於て此の種の信用を與ふるには次の如き條件を必要とする。

即ち受信者はドイツチェバンクと其他の銀行取引を有し、殊に他の銀行との取引を中止し、ドイツチェ銀行と關係の存續する限り、かゝる要求をしないと云ふ義務がある。申込者はドイツチェ銀行に自署の貸借對照表並に最近二ヶ年の損益計算書を提出し、その業務狀態に關して詳細に説明し、提供する債權に關しては何時でもその檢閲を許さねばならぬ。之に反して帳簿上の債務者に於ては債權の存在に關して探索することを得せしめない。次に債權は國內の支拂能力確實なる營業者に對する商品の供給に基くものであつて、個々の債務者に於ける債權總額は少くとも百五十マルク以上たることを要し、且提供の日より三ヶ月以内に満期となるべきものでなければならぬ。且債權は確實にして、他の機關に質入又は讓渡せられざるものたることを要すると共に、ドイツチェバンクと關係の存續する限り他に質入又は讓渡することを得ない。即ち債權をドイツチェ銀行に讓渡して以後は、債務者はその債權に關する處分權を放棄し同行の承諾なくしては、其の債權に關して第三者と附加的協定を結ぶことを得ない¹⁰⁾ドイツチェ銀行は受信者に債權の五割乃至八割に相當する信用を與へる。其の償還期限は大體債權の期限に相當するものであるが、少くとも三ヶ月(或は九十五日)以上に亘ることを得ない。かくして受信者の得た手取額は専ら供給者への商品勘定支拂並に貸銀支拂に向けられねばならぬ。帳簿上の債務者に對する讓渡通知は全くドイツチェバンクに委ねられ、協定に依つて通知を發し、又は屢通知を發しない。然しドイツチェ銀行がその債權に對して十分なる擔保を認め得ない場合、例へば債務者が債務を辨濟せざる時、或は債務者の狀態が著しく變更せられたとき、又は提供せられた債權が其の法律關係に於て變化を來した場合等に當つては、ドイツチェバンクはその協定に反して帳簿上の債務者に讓渡通知を發するの權利を有してゐる¹¹⁾。

上述の如く賣掛金割引の方法は手形の使用に馴れない小工業の賣掛金を流動化し、中小工業の短期金融方法としては頗る有効にして、且便利なる方法であるが、他方に多少の缺點を藏するこゝとは注意を要する。即ち其の利率の割合に高きは中小工業者の不利とする所であるが、中小工業者に於ては其の利益の大なる點に於て忍び得る所である。缺點は寧ろ金融機關の側に存するので

10) Stille, O., a. a. O. S. 97.
11) Obst, G., Das Bankgeschäft. 9. völlig veränderte Aufl. Stuttgart 1930. Band I S.S. 355-357; Schulze-Gaevernitz, G. v., Die deutsche Kreditbank. Tübingen 1922. S. 94; Kaeferlein, H., Der Bankkredit und seine Sicherungen. 5. Aufl. Stuttgart 1925. S.S. 343-345.

あつて、銀行は同じ債權が他の銀行に於て二重に利用せられる虞れがあり、中小工業者の貸借對照表を十分に理解し、賣掛金の實在を檢查し、割引手取金の處分を注意する等相當の手數を要し、且回收の遅延する不便がある。又帳簿上の債務者にとつては此の方法は餘り喜ばれない様である。從つて獨逸に於ても其後信用銀行に於ては此の制度の採用者を餘り多く見ないものの如くである。¹²⁾

(ハ) 動産擔保 最後に動産擔保信用 Lombardkredit は一定の換價性に富む擔保に對して與へらるる信用であつて、從來は有價證券が屢々用ひられたが、戦後の經濟的破壊に依つて有價證券に投資せられた中小工業者の財産が激減してしまつたから、現今では有價證券は殊に其の重要性を失つてゐる。¹³⁾次に中小工業の所有する擔保物件として最も重要な地位を占むるものは、加工中の原料品、營業器具類、半製品、完製品等であるが、現在獨逸の民法及商法に於ては動産質權 Mobilianpfandrecht が専ら行はるる所にして、羅馬法に於けるが如き動産抵當 Mobiliarpfandrecht の制度が認められてゐないから、若し中小工業者が加工中の原料品、營業器具類、半製品等を擔保として、短期金融を受けんとするならば、その擔保たるべき動産の占有權を移さねばならぬ。かく擔保物を渡してしまふことになつては、中小工業者はその營業行爲を繼續して行くことが出来なくなり、中小工業者の不便は云ふ迄もない。此の點が中小工業の經營信用方法として動産質權制度の最も大なる缺點とせられてゐる。

そこで之等の擔保物を實際中小工業者に使用せしめながら、他方銀行に於て擔保の實を舉げん

12) Stillsch, a. a. O. S. 96; Schulze-Gaevernitz, a. a. O. S. 95.

13) Rössle, a. a. O. S. 210.

が爲めには、特別の考慮が必要であつて、獨逸に於ては之が爲めに賣渡抵當の一種たる動産の信託讓渡 *Sicherungsübereignung von Mobilien* の方法を案出した。此の方法に依れば、原料品、製品及機械類等を概念的に授信者の所有に移し、同時に受信者と使用契約又は賃貸借契約を結んで當該讓渡物をそのまま使用せしめ、一方授信者は信用危機に際してその讓渡物件を自由に處分し得るの權利を有すると共に、他方受信者が債務關係を合法的に辨済したる時は、授信者は同一物件を受信者に返戻するの義務を負ふものである。此の動産信託讓渡の方法に依つて中小工業者は法律上有效にその經營信用を受けることが出来るが、然し此の制度の實際上の運用に當つて起る最も重大なる障害は、代替主義 *Surrogatsprinzip* の解決を缺如してゐることであつて、中小工業者はその作業中に新しい商品を製造し、或はそれを完成するが、他方常に讓渡した物件の一部分をその經營に於て加工し、或は販賣するから、銀行は常に當該物件の一部分を返戻し、中小工業者は新しい物件を銀行の所有に移さねばならぬ。従つて此の動産の信託讓渡の制度に於ては、如何なる場合でも非常に面倒なる但書が必要である。若しも之が法律的に精確に考慮せられて契約せられず、又その實行に際して繼續した一つのものとして取扱はれなかつたならば、中小工業者の側に於ては生産行程並に販賣行爲を阻止せらるることとなり、又銀行の側に於ては例へば破産の起つた場合等に於て不便なることが尠くない。之が爲めに獨逸に於ても中小工業の短期信用の改善方法として夙に動産抵當 *Registerpfandrecht* の採用論が行はれ、一九二六年一月三十日には獨逸國民黨 *Deutsche Volkspartei* から、共和國議會に之に關する議案が提出せられたが、不幸

にして否決せられた。乍併此の運動は決して阻止せらるることなく續けられ、既に一九二六年には此の動産抵當權に關する一般法の先驅者として、農業小作人資金調達助成に關する法律並に建造中の船舶の質權設定に關する法律の二法律が公布せられてゐる。¹⁴⁾ かくの如く獨逸に於ては現在動産を擔保とする方法として質權及信託讓渡の二方法が行はれてゐるが、中小工業の經營信用の方法としては不便多く、従つて現在獨逸に於ては動産擔保貸付は、中小工業の短期金融方法として、十分に活用せらるるには至つてゐない様である。

III' Dresdner Bank の中小工業金融

最後に大銀行の中小工業の短期金融として忘るべからざるはドレスデン銀行の貢獻である。ドレスデン銀行が間接ではあるが、信用組合を通じて中小工業金融に盡しつゝあることは有名なる事實である。即ち市街地信用組合の祖シュルツェ氏はその信用組合の中央金融機關として一八六五年に資本金六十萬マルクを以て、伯林に Deutsche Genossenschaftsbank von Sögel-Parisius & Co. を設立し、その資本金は漸次増加せられて三千六百萬マルクに達し、次第に發達して來たが、一九〇〇年の恐慌に際して此のゼーゲル・パリシウス會社は窮境に陥り、遂に一九〇四年にはドレスデン銀行に合併せられて、その信用組合部 Genossenschaftsabteilung となつた。爾來 Dresdner Bank の信用組合部はシュルツェ式信用組合の中央金融機關として、信用組合を通じて市街地の中小商工業者の金融に多大の便宜を與へてゐる。¹⁵⁾

併し乍らドレスデン銀行は其の貸借對照表に於て、此の信用組合資金を區別して發表しないか

- 14) Reier-Hirschberg, a. a. O. S.S. 31-37; Koch, A., Banken und Bankgeschäfte unter besonderer Berücksichtigung der Rechtsverhältnisse. Jena 1931. S.S. 136-151; Stillich, a. a. O. S. 46.
15) Hugenberg, A., Bank und Kreditwirtschaft des deutschen Mittelstandes. München 1906. S.S. 15-16.

ら、總括的に之を明示することを得ないけれども、今部分的に之を伺ふに、スタールの記する所に依れば、¹⁶⁾バイエルンに於てはドレスデン銀行信用組合部は Bayerische Landes-Gewerbebank A. G. München-Nürnberg と共に、信用組合に多大の資金を供給しつつあるが、工業銀行は一九二七年に約一千萬ライヒスマルクの信用を信用組合に與へて居り、ドレスデン銀行信用組合部の信用組合に供給した資金は、此の額の約半額に達するであらうと述べてゐる。又フックスの研究に依れば、¹⁷⁾西獨逸に於てドレスデン銀行は當座貸越及手形割引に依つて、一九二七年に四百七十萬ライヒスマルクの信用を、信用組合を通じて中小商工業者に供給してゐる。

更に又ドレスデン銀行の信用組合部はシュルツェ式信用組合の振替制度の中心機關として地方的信用組合を統轄し、その振替所としては加入信用組合の外に、ドレスデン銀行の支店も亦相並んで活動する有様である。従つて此の振替組合に屬する振替及現金取立所 Giro- und Inkassoplatze は、一九二七年には三千八十九ヶ所の多きに上り、其の受入手形及小切手の總數は二百七十萬枚、¹⁸⁾其の總額は八億五千百六十五萬ライヒスマルクの多きに達してゐる。

(未完)

16) Ein Beitrag zur Frage der Kreditversorgung des gewerblichen Mittelstandes und des Hausbesitzes in Deutschland. Herausgegeben von dem Reichsverband des deutschen Handwerks. Hannover 1930. S.S. 64-71.

17) ditto. S. 30.

18) Rössle, C., a. a. O. S.S. 218-222.